



オパール
COMICS

系教調男子

オオカミ様と
子猫ちゃん

あづみ悠羽

原作:榎原まき
イラスト原案:つきのおまめ

5

オパール
COMICS

彼はベッドの上では
常に支配者で

わたしを縛る存在

彼の求めにはすべて
応じてきた

俺だって…今まで
深雪^{みゆき}以外の女を
何人も抱いて
きたんだよ？
恋は一つじゃ
ないからね

深雪も
俺以外の男に
抱かれる日が
来るんだろう

わたしは彼しか
愛していないのに

—っ
どうしてそんなことを
考えるの？

わたしが彼以外のもので
いつてしまったせい？

それとも—

わ…わたしが嫌に
なったんですか…？



恋は
夢みたいなもので
いつかは醒める

深雪もそのうち
俺との夢から醒めて



そうじゃない

深雪に
嫌になられるのは
俺のほう



そんなことは――

俺も若い頃
たくさん
恋をしたよ



心から愛した
女性もいた



でもみんな
最後はいらないうって
捨てられた



いやっ！

他の男と…新しい
恋の夢を
見るのかも――



悲しいことを
言わないで…

彼が泣いている
気がする



この恋がいつか
終わると思ってるの？

心から愛した
女性のことを
忘れられないの？

他の男の人なんて
いやです…

わたし…誠司さん^{せいじ}と
ずっと一緒に
いたいのに…

わたしは…
彼の特別に
なれないの…？

じゃあ俺を
求めてよ

俺は…深雪に
求められたいよ…

誠司さん
大好きです

わたしを
抱いてください…
お願いします



深雪の
欲しいものを
あげるよ



あぁっ

んっ

はっ

はっ

あう

奥まで
とろとろだ…

俺の言いつけどおり
しっかり中を
ほぐしていたね

えらいよ







このまま
中に出して
あげようか？



中...に？



前に言ったよね

深雪の初めては
全部
俺にくれるって

初めての
中出だよ
...どう？



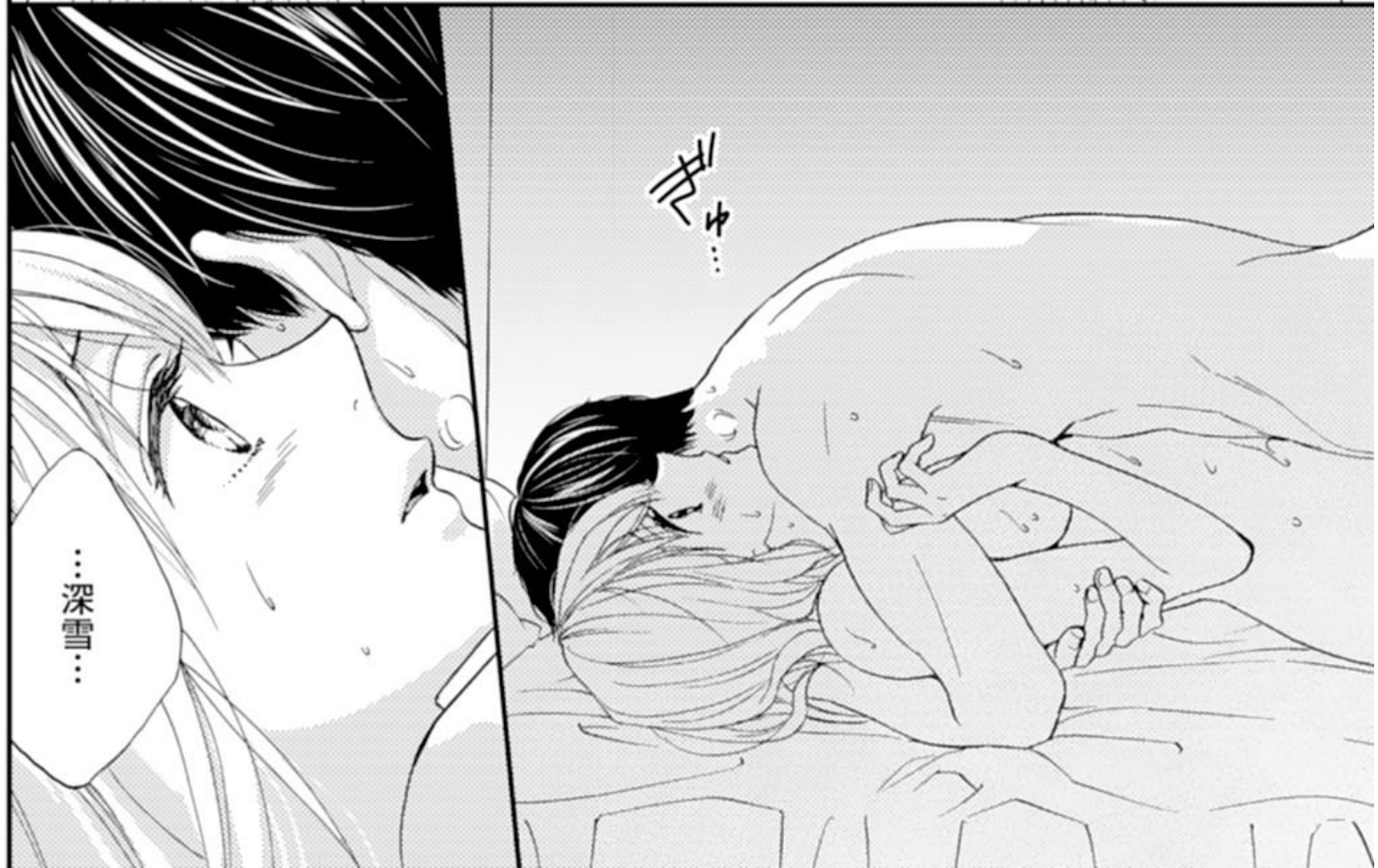
して...

なかに...

おねがい...

彼の...すべてが
もらえるなら...

もっと深く
一つになれる...？





ごめん...

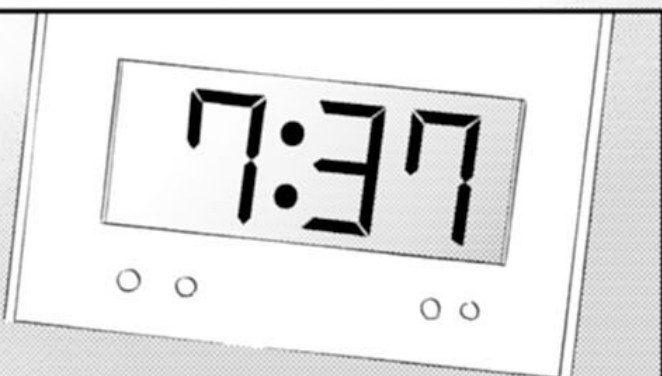
こんな男で...

：謝る理由も
何もわからないけれど

それでもいい

言えない何かが
あるのだとしても

彼のことなら
きつとすべてを
愛せるから――

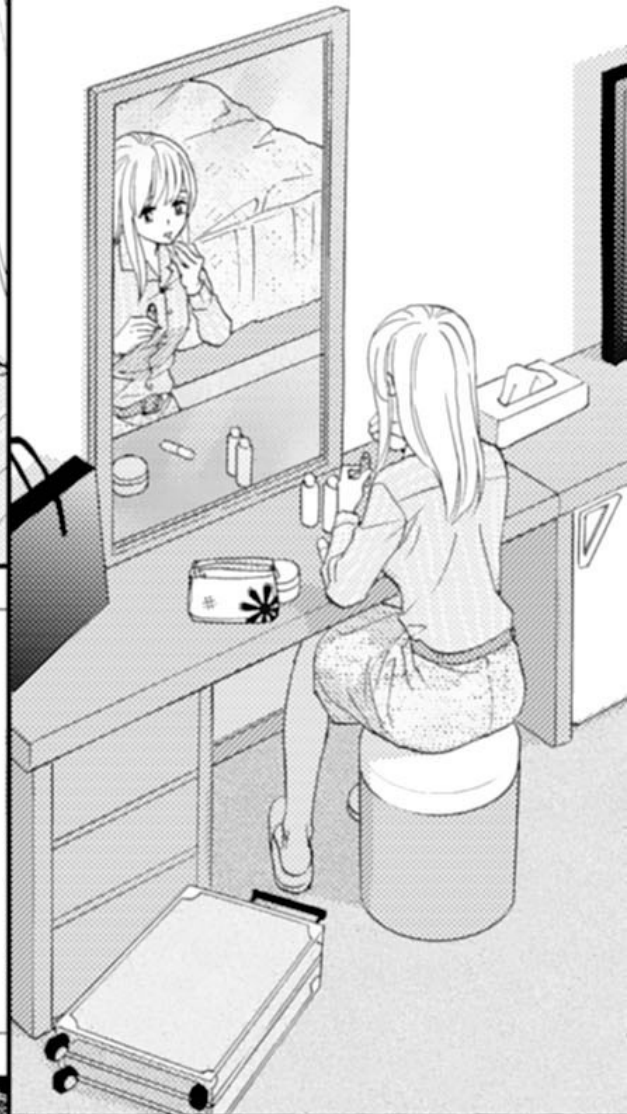




…朝になったら
いつもの
誠司さんだった



ごめん
昨日の俺…なんか
おかしかったな



深雪の
せいじゃないよ

自分を制御
できなかった
俺が悪い

まったく…
いい年して
恥ずかしいよ



誠司さん

そういえば
中川さんの相談って
何だったんですか？



中川^{なかがわ}さんと会って
戻ったら様子が
おかしかった気が





二人が会っていたことを
別室のはずのわたしが
知っていてもおかしいし



そうですか

手助けできる
ならって思ったけど
それなら聞かない
ほうがいいのか



ああ…

仕事の相談ではなくて
プライベートなほう
だったよ

まあ
男の話…かな

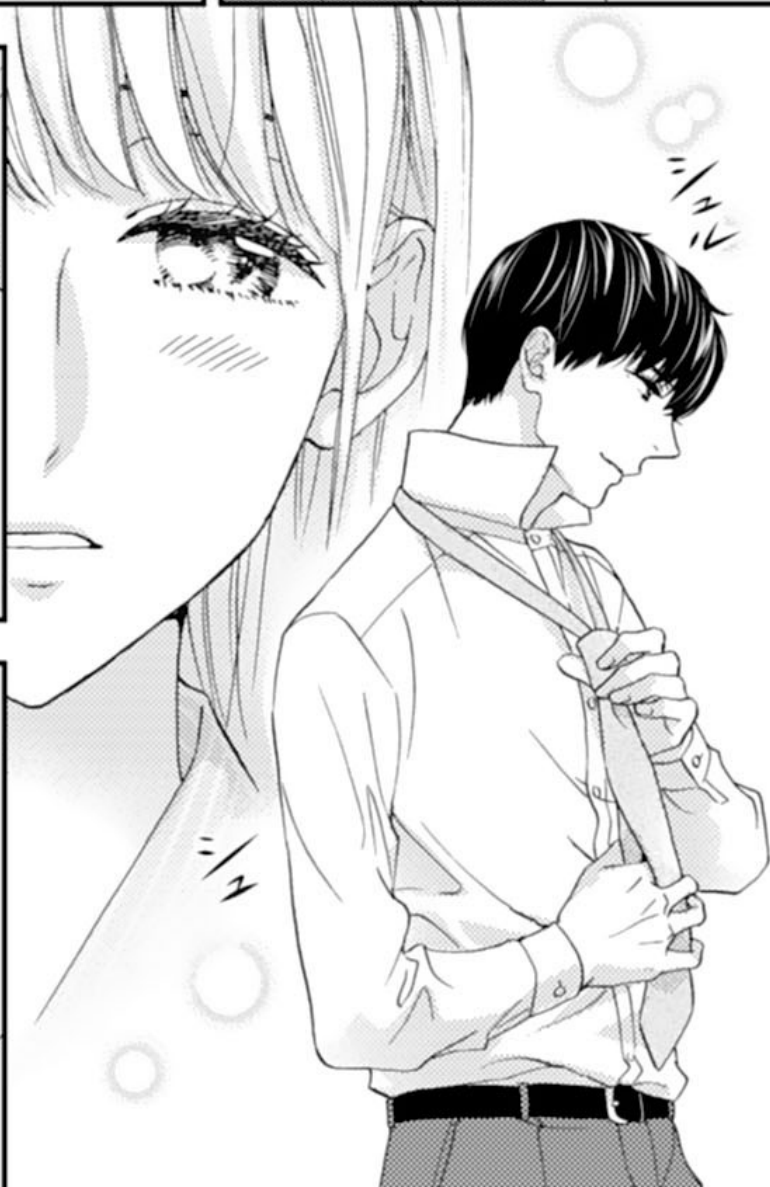


どうしたの？

かっこ良くて
つい…！



ネクタイ締める
ところなんか
見て楽しい？



シユ



あの誕生日の
前日の夜以来

時々
手錠と目隠しで
拘束されている

性的に支配される
悦び——あれが
麻縄になったら…

わたしは
どうなって
しまうんだろう…

…縛って…
もらえるんですか…？

深雪が
望むなら

す
ッ

彼は…縛られた
私を見て
興奮してくれる？

今キスしたら
綺麗な口紅が
取れてしまうかな？

舌を出してごらん







主任も
寝るんですね…



主任がお休み
みたいだから
少し声の
ボリュームを
落とそうか

！
はい



だって
いつでもきっちり
していて
隙がないじゃ
ないですか

そ…そうだけど…



じゃあ二人とも
お疲れ様

また来週

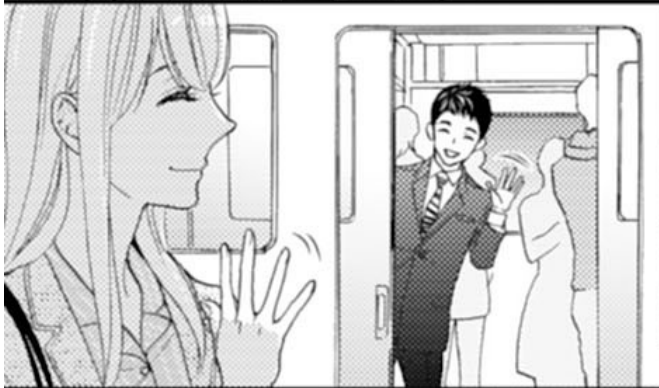
お疲れ様でした
主任

お疲れ様でした！

高田さん一緒に
帰りましょう？



栗橋で降りたら
すぐに誠司さんに
折り返そう



路線が逆だから
中川くんを
ごまかせない…



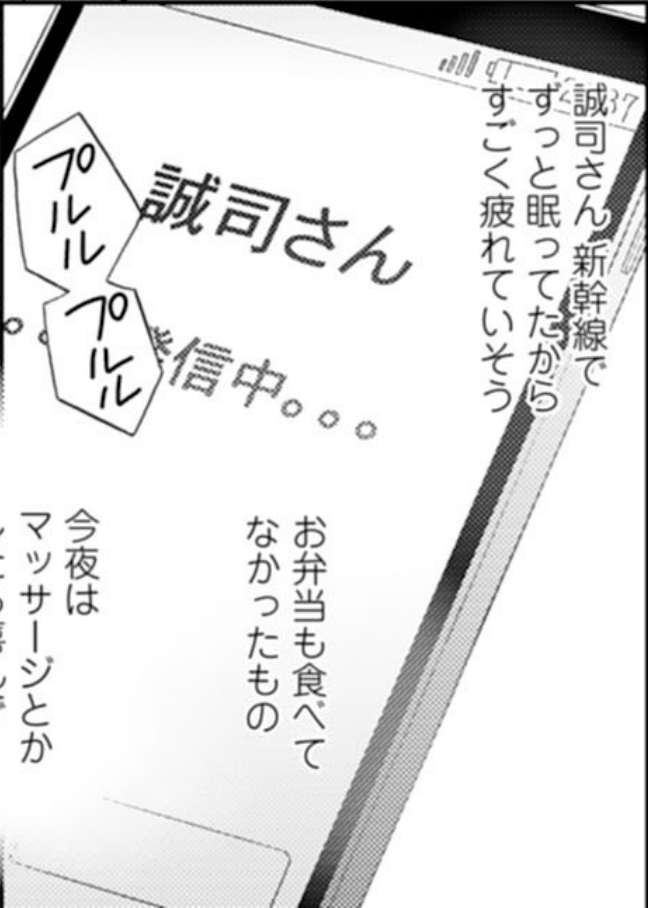
う…うん

しまったな…
週末はいつも
彼のマンションで
過ごすのに



もしもし
誠司さん！

もしもし？



誠司さん
…信中…

誠司さん 新幹線で
ずっと眠ってたから
すごく疲れていそう

お弁当も食べて
なかったもの

今夜は
マッサージとか
したら喜んで
くれるかな？

わたし今 栗橋に
着いたところで――

ん？

深雪今
一人なの？

一人ですよ？

誠司さんのところに
今から行こうかな
って思ってる

――中川が
深雪のマンションに
送ってくれると
思ったんだけど

違ったんだね

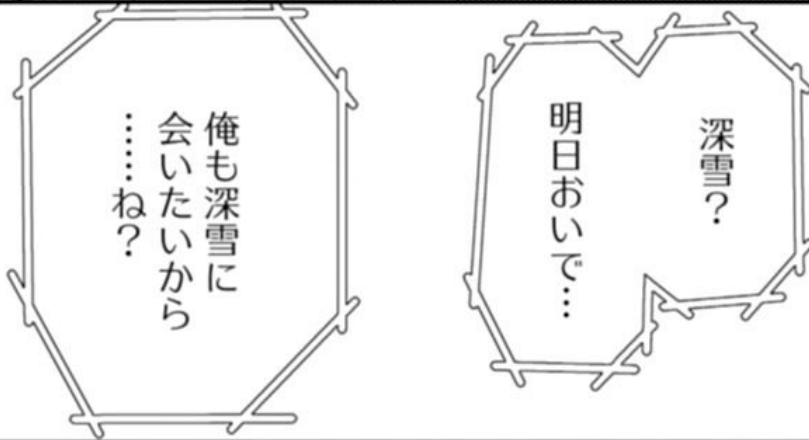
どうして
中川くんが？

：深雪も
出張で
疲れたろう？

俺もなんか
疲れた

もう夜も遅いし
今日はそのまま
自分のマンションに
帰りなさい







そうだな
深雪が家に着くまで
このまま話していようか

いいんですか？
でもお疲れ
なんじゃ…

それぐらい
平気だよ



今は声しか
聞けなくても
明日には会える

明日なんか
すぐに
来てしまう



ほんの少しの間

我慢すればいいだけなんだ

To be continued...



調教系男子 オオカミ様と子猫ちゃん⑤

著者 あづみ悠羽
©2018 Yuu Adumi

発行 プランタン出版
発売 フランス書院

※本作品の内容はすべてフィクションです。
※本書の無断複写・複製・転載・配信は、著作権法上での
例外を除き禁じられています。